

『三井文庫論叢』第二〇号の刊行によせて

山 口 和 雄

昭和五一年一月、『三井文庫論叢』第一〇号が刊行された際、中井信彦前館長は、

「本誌はもともと当文庫研究員の研究成果発表の場として始められたものであり、あわせて未刊の襲蔵史料を印行紹介することを目的の一つとしてきた。……近年はそれに加えて、三井文庫史料を素材とする部外の、とくに若手研究者の研究成果にも発表の場を提供することに留意してきた」

と述べているが、刊行の趣旨はその後も変りなく、号を重ねて今回第二〇号を刊行するにいたった。第一一号（第二〇号も力作が多く、各号相当の大冊で、その総頁数三五〇〇ページに及ぶ。その内容を簡単に示すと次表のとおりである。執筆者は各号ともほとんどが文庫研究員であるが、一名内外の部外研究者が加わっている場合もかなりある。今後もこうした方針で毎年一冊宛確実に刊行していくつもりである。

三井文庫は、『論叢』のほか『三井事業史』の編集刊行を企画し、すでに前期において『資料篇』四卷五冊の刊行を

論文（研究ノートを含む）

近世

- 近世後期の京都における越後屋の営業組織 (11号)
化政期の越後屋長崎方の流通構造 (12号)
幕末・維新期の御為替三井組 (13号)
三井両替店の御為替銀裁許と家屋敷 (14号)
京都における三井家の屋敷 (14号)
文政・天保期の大坂銅座の財政構造 (16号)
宝暦期の大坂御用金 (18号)
大坂の火消組合の機能と運営 (18号)
三井両替店の大名金融 (19号)
個別町における家守の位置づけ (19号)

近現代

- 三井財閥における石炭業の発展構造 (11号)
1920年代における三井銀行と三井財閥 (11号)
石炭販売プール制の成立とその経過 (11号)
1910年代における三井鉱山の展開 (12号)
産銅独占の成立 (12号)
三井合名会社の成立過程 (13号)
三井銀行の株式会社化に関する一考察 (14号)
三池炭礦における「合理化」の過程 (14号)
空調式古文書保存書庫の15年 (14号)
見込商売についての覚書 (15号)
第一次大戦以後における三井物産会社の展開 (15号)
1930年代における三井物産会社の展開過程（上・中・下） (16・17・18号)
銀行創設前後の三井組 (17号)
戦時経済統制下の三井物産（Ⅰ・Ⅱ） (17・19号)

史料紹介

- 三井店奉公人の総墓 (11号)
三井高業学芸資料（1・2・3） (11・12・13号)
伯州赤崎西紙屋文書 (12号)
三井物産株式会社取締役会議録 (14号)
田中九右衛門翁談話筆記 (15号)
三井合名会社北京特派員執務概要 (15号)
三井文庫所蔵の京都冷泉町関係史料 (16号)
松島吉十郎談話筆記 (16号)
井上馨宛益田孝書簡 (16号)
大坂高麗橋三丁目の「水帳」と「毎月家持借屋人別判形帳」

『三井文庫論叢』第20号の刊行によせて（山口）

並びに三井両替店譲り替史料	(17号)
別家手代の遺言状と跡式関係史料	(18号)
三井養之助（高明）ロンドン来状	(19号)
新規公開資料について	(14・16・17・18・19各号)

口絵

三井店奉公人の京都真如堂総墓	(11号)
三井鉱山串木野鉱業所西山坑々内作業および 同岸ヶ野坑通洞口	(12号)
三井越後屋江戸本店の看板	(13号)
明治中期の三井銀行支店（神戸・松阪・大阪）	(14号)
三池炭礦運炭船の運搬風景とロノ津港風景（明治38年頃）	(15号)
三井大坂両替店の印鑑	(16号)
三野村利左衛門宛ロバートソン書簡とワトソン肖像	(17号)
ロンドン物価報告状	(18号)
「全盛富貴寿古録」全図および三井両替店・呉服店拡大図	(19号)

完了した。本篇の編集執筆は、本期の昭和五二年前後から始められ、五五年九月にいたって全三巻が刊行された。第一巻の対象時期は江戸時代、第二巻は明治時代、第三巻上は明治四二年三井合名会社の成立から大正期までで、編集執筆は前館長の監修のもとに、当時の研究員のほぼ全員があたった。各巻とも五〇〇ページないし七五〇ページに及ぶ大冊で、根本史料にもとづく本格的な三井事業史である。

だが、その『三井事業史』もこの時刊行されたのは大正期までを取扱った第三巻上までであった。昭和元年前後から財閥解体にいたるまでの時期については、その後新研究員によって資料の蒐集整理と研究が進められており、今後両三年のうちにその成果を第三巻中および同下として刊行すべく努力中である。

『三井事業史』資料篇全五冊には江戸期から明治期にいたる三井家ならびその事業に関する基礎的な資料が収録されているが、このほかにも三井文庫には三井史に関する資料が数多く収蔵されている。今後、そのうちの重要なものを選び、『三井文庫資料叢書』（仮題）として逐次刊行したいと考えている。また、昭和二七年に刊行された三井文庫編『近世後期における主要物価の動態』も今日では入手困難になったので、その増補改訂版を出したいと思っている。

三井文庫の事業は、『論叢』や『事業史』の刊行だけではない、蒐集または寄贈を受けた貴重且つ龐大な資料を保存整理し、文庫外の研究者などに対し広く閲覧に供することも重要な仕事である。これに関連する基礎的な事業は、当文庫所蔵の資料について統一的な「収蔵資料目録」を作成することである。これは地味で時間のかかる困難な仕事であるが、なんとか実現したいものである。

以上、『三井文庫論叢』第二〇号の刊行を機に、文庫の過去一〇年間の事業を回顧し、今後の活動について私の考えているところを述べた。読者諸氏のご鞭撻を頂ければ幸いである。なお、三井文庫では昭和六〇年五月に新たに別館が建設され、三井八郎右衛門氏・故三井高遂氏から寄贈を受けた国宝・重要美術品を含む多くの美術工芸品、および三井正子氏（三井高陽氏未亡人）から寄贈された切手関係資料を保存研究し、その成果を年に三、四回一般に展示公開することになった。この事業もその後専門の研究者、学芸員を中心に進められている。大方のご支援をお願いする次第である。